



休耕地でワラビの植え付けをする村農業委員会の皆さん

山の幸の特産化進める 休耕地の解消を目指して

村農委でワラビの試験栽培

ワラビの試験栽培で休耕地対策を進める村農業委員会（正路正明会長、委員十三人）では六月七日、緑区の中居弘栄さん（太田名部）所有の転作田を借りて、ワラビの根の植え付け作業を行いました。

ワラビの根は、午前中に鳥居地区の山林から採ってきたもので、委員の皆さんは、岩手県久慈農業改良普及センターの加藤清吾改良普及員の指導を受けながら、約百平方メートルの畑に、ワラビ約二十キを丁寧に植え付けました。

ワラビの試験栽培について正路会長は「農家が高齢化して、休耕地が増えていきます。その対策として、委員の皆さんと相談してワラビの試験栽培をすることにしました。ワラビは春から秋まで収穫でき作業も簡単。高齢者でも無理なく栽培できます。これを成功させて、広く皆さんに取り組んでもらいたいです」と話し、試験栽培の成功を願っていました。

畑は委員の皆さんが当番制で、草刈り、追肥などを行い、十一月まで管理します。

今月から再び、「広報ふだい」の紙面でお会いできることになりました。本当に久しぶりで興奮のためか、はたまた、気合が入り過ぎていたのか、「うーん、書けない」の日々が続きました。思いが空回りしている文章になっているかも知れませんが、どうぞ末永くお付き合いください。



健康相談などで元気なお年寄りの皆さんとお会いするたび、あらためて、健康で居られる豊かな人生について考えます。健康が最終目的ではないものの、自分がこうしたい、こうなりたい！という生活の手助けをしてくれるのが「健康」である事は、何より、努

お久しぶりです。 末永くお付き合いを

これから始まるリレーメッセージ、皆さんの声で、より役立ててもらえるコーナーに育ててもらえますよう、よろしくお願いたします。

保健師 長根真奈子

私が、七年ぶりに保健活動の現場に戻り、あれも、これもと七年分の変化に出合い、正直、とまどう毎日です。「ほんとにお久しぶりですねー！」と声をかけていただくたび、心から保健師をさせてもらえていることの有り難さを実感しています。

皆さんの周りにも、生き方から学ぶべき、多くの元気なお年寄りがいらっしやるはず。生きる知恵をいっぱい教えてもらわれないなんて、絶対に損です。私たちにとって、

高速インターネットの希望調査

伸び悩み、6月末で88件

村で希望調査を行っている高速インターネット回線の利用希望者が、六月末で八十八件と伸び悩み、目標の二百件の半分以下となっています。

村では、今年二月にアンケート調査を全世帯対象に実施。その結果、希望が七十九件と少なく、五月に追加希望を受け付けました。その後、徐々に希望者は

増えましたが、件数は電話番号を一件とカウントすることから、希望者百三人に対し、電話番号数では八十八件にとどまっています。

村では、引き続き希望を受け付けています。利用希望の方は役場総務課（☎351-2111）までご連絡ください。